

**第9回 理研バイオリソースセンター リソース検討委員会 議事要旨**  
**微生物材料開発室**

日 時 平成25年3月19日(火) 9:30~12:32  
場 所 富国生命ビル23階 理化学研究所 東京事務所 大会議室  
出席者

(委員等) 渡邊 信 委員長、篠田 純男、鈴木 健一郎、炭田 精造、矢口貴志  
各委員

(文科省) 細野係長

(NBRP) 佐藤事務局長、平田局員

(理研側) 小幡BRCセンター長、阿部BRC副センター長、大熊微生物材料開発室長、今泉研究推進部長、村上企画課長 他

**■バイオリソースセンターの次期中期目標、計画について**

- 予算状況の厳しい中、5年後の見直しにおいて、事業規模の継続性も踏まえて理研BRCの存在意義を明確に意思決定者に伝えることができると、大きな発展をもたらすことができると思われる。信頼性とブランドの盤石な確立を前提に、先導的かつトップレベルの維持と環境分野における安定的な微生物研究の必要性を訴えることが重要である。
- 名古屋議定書による国際的な取り決めについては、商業利用を前提とした経済的な側面が強調されているが、学術分野への波及には問題が多い。EUではEU信認コレクションを提案しており、日本での枠組みが整わない場合、学術・産業会の利用者はEUからの入手にシフトすることが危惧される。日本の関連機関における明確な方針を国として出し、日本での枠組みを早急に構築する必要がある。

**■微生物材料開発室、平成24年度の成果について**

- 理研BRC-JCMの長い歴史の中で勝ち取った信頼性・ブランドを失うことなく、さらに向上を目指して着々と事業を進めている。それらの成果に加え、環境・健康という分野での先導的な整備を行うというチャレンジングな目標に向けても成果が出てきている。
- 理研BRCは微生物株の寄託時に、寄託者である研究者のみならず、寄託機関の承認をとっている。生物多様性条約に関連して、このことは先見の明があり将来非常に重要となる。
- 微生物株に対する付加情報について、分類学についての情報はJCM職員の専門分野であるが、その他は論文の情報によると思われる。共同研究の枠組みの中で、分類学以外の分野の専門研究者へ数百株程度の微生物株を提供して関連情報をフィードバックして頂くことが重要であり、これにより、独自のデータが付加され、さらに価値が創出されると思われる。
- 理研BRC-JCMへの基準株の登録は、ドイツDSMZに次いで世界2位だが、アジア地域での絶大な信頼性があれば、アジア地域の高度成長に伴い自然にJCMは世界のトップになると思われる。しかし、ヨーロッパの機関は歴史があり、人材も多く、ヨーロッパ地域の機関に預けないと認められないといった困り込みの戦略を取っているようである。ヨーロッパ地域に対する何らかの戦略をとることが重要と思われる。
- 基準株の重要性は十分理解でき、基準株の登録が多数あるということは、理研BRCのブランド名の浸透の現れで、信頼を勝ち得た結果と思われる。次ぎの段階として、大学等の研究と密接に関係したリソース整備体制の構築を図っていくことが必要である。

#### ■微生物材料開発室、平成25年度の計画について

- 理研BRCからの提供数の増加は、収集戦略のところに結局帰結するように思われる。従って、収集について綿密に計画を策定する必要がある。平成25年度の計画で、「環境と健康の研究に有用で先導的役割を果たすリソース」と記述されているが、整備対象研究を網羅的に記述するだけでなく、先導的をめざす整備対象を具体的に明示する必要がある。
- 昨年、JCMはAsian Consortium for the Conservation and Sustainable Use of Microbial Resources (ACM)のメンバーとなった。Asian Network of Research Resource Centers (ANRRRC)とACMは立ち位置が異なり、ANRRRCはバイオリソース全体として一つの議論の場として大切だが、微生物に関する特異的な議論には限界がある。ACMにおいて、微生物専門家が参加する研究テーマを設定し、それを遂行する過程でリソースの移転等を経験して、適切な体制を作っておくことを推奨する。このような実績は、名古屋議定書発効の際の多国間での交渉に役立つ。
- 地方大学を含めて、退職教官の研究室で維持保存されてきた微生物株で極めて重要なものが存在する。確実な移管が重要で、理研BRCに期待する。

#### ■提供手数料の改訂について

- 乾燥保存法が適用できず、一般の提供形態である乾燥保存標品での提供ができない微生物株を培養して提供する場合に適用する手数料の新設を提案し、特に異議等なく承認された。

以上